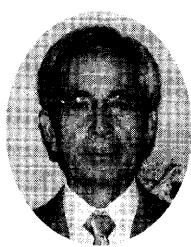


中友会が結成されて五十年を迎えることがで
きました。五十年の重みを噛みしめながら、本会
の充実発展のために尽くされた歴代の役員、幹事
の皆さんに敬意と感謝を申し上げ、中友会結成
五十周年を会員の皆さま共々に、お祝いし喜びた
いと存じます。

中友会結成当時を振り返りますと、結成について、元会長は、「『中学校長として一つ釜の飯を食
い、同甘共苦、新制中学校を育てた人たちのつな
がりを持つて、過ぎし日と共に偲び、将来への希
望を期待しよう』との同志的集まりを作ることに
あつた」と記しています。

終戦後、新しい教育制度の下、そのシンボルと
して発足した新制中学校は、母体となる旧制の学
校が無かつたため、校舎をはじめ施設・設備も、
教材教具も整わず、まさにゼロからの出発でした。
その困難と闘い大変な苦労を重ねながら、新
しく誕生した中学校を育ててきた先達としての自
負と、苦楽を分かち合ってきた仲間との強い絆が
込められた言葉です。この中友会結成の精神と心
情は中友会の伝統として中友会会員に共有され、

中友会が結成されて五十年を迎えることがで
きました。五十年の重みを噛みしめながら、本会
の充実発展のために尽くされた歴代の役員、幹事
の皆さんに敬意と感謝を申し上げ、中友会結成
五十周年を会員の皆さま共々に、お祝いし喜びた
いと存じます。



中友会結成五十周年を祝う 新たなる歩へ向かって

中友会会長 宇津木 順一

[発行所]
中友会
港 区 西新橋 1-22-13
日本中学校長会館 202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条 瞳助
親互 生涯學習

<http://chuyu-kai.org/>

一つは学校制度の変化です。小学校、中学校、高等学校と進む六・三・三制、単線型の学校制度の下、中学校は唯一の前期中等教育機関として、その役割を担ってきました。しかし、今日、小中一貫教育の「義務教育学校」や中高一貫教育の「中等教育学校」などが制度化され学校制度が大きく変わってきてています。中学校が担ってきた前期中等教育が多様化する中で、中学校に対する意識も大きく影響されるようになつたと考えられます。

第二に定年についての考え方です。現在、再任用制度など定年後の雇用制度が整備される中で、定年を過ぎても多くの者が定年前とほぼ同様の業務に当たっています。定年はあつても現実には無いと同様の働き方になり、定年で退職という実感は持てない状況があると思われます。

第三に健康寿命の変化です。「人生百年時代」と言われるなど、定年後の人生が職業生活に匹敵するほど重要になり、定年後を余生として過ごすのではなく、生き甲斐を求めて、それぞれが多様な生き方、過ごし方を追求する時代に変わってきています。

このような時代の変化を会としてしっかりと受け止め、対応を図りながら、中友会の伝統を守り、魅力ある中友会を目指して、会員の皆さまと共に新たな一步を踏み出していきたいと思いま

今日の中友会の確固たる結束につながっています。
事業活動で、結成時に第一に取り上げられたの
は、中学校教育に尽くした物故会員の慰靈祭でし
た。第一回慰靈祭が会の発足した昭和四十二年に
護国寺で挙行され、その後慰靈祭がほぼ三年ごと
に護国寺で行われて、本会の最重要事業として現
在に引き継がれています。来年六月には第十七回
合祀慰靈祭を執り行います。

また、会の結成に当たつて、会員名簿の作成に
大変苦労したことですが、会員の動静を知り
合う資料として、最初は毎年、その後三年ごとに
発行し、これも現在に引き継がれています。
会務の運営についても、「入会後三年以内の各
期から幹事を出し、幹事長を中心にその掌にあた
り、中友会の運営は旧新相和した美しい姿が展開
されているのである。伝統を背景に常に若き活力
を注入し、会を老化させない、本会の特色ある運
営である」として今まで受け継がれてきました。
このように、この五十年、中友会結成の構想を
受け継ぎ確固たる中友会の組織、伝統を築いて参

りました。現在、一、九〇〇人を超える会員を擁する強固な組織に発展しています。

一方、五十年を経て、今日、中友会を取り巻く状況は大きく変わり、会の運営にも影響が出てきています。